



わかものネットの軌跡

生物多様性わかものネットワーク解散にあたって



2023 年3月

編集委員 浅原(安藤)みゆき
(生物多様性わかものネットワーク OG)

お世話になった皆様への謝辞

この度は、私たちの 10 年以上にわたる活動に対して多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございました。皆様のおかげで、私たちは生物多様性の保全に多少なりとも貢献することができたと思います。

皆様には、多様な形で私たちの活動にご支援をしていただきました。右も左も、ビジネスマナーも何もわからない私たちに、本当に0から知識や立ち居振る舞いについて教えてくださった方々、自分たちだけではできない挑戦をしたいときに、快く資金をご提供くださった方々、活動の発表の場を与えてくださった方々、イベントにご参加くださった方々…本当にたくさんの方々が私たちを支えてくださいました。

また、皆様のご支援があつてこそ、私たちは多くの成果を得ることができました。例えば、国連生物多様性の 10 年日本委員会(UNDB-J)や 2030 生物多様性枠組実現日本会議(J-GBF)の委員としてユースの枠が作られたのも皆様のお力添えがあつたからこそだと思います。委員会内外で、少しでもそれに報いるような活動ができていたら幸甚です。

私たちがこのような成果を得ることができたのは、皆様方のおかげです。本当にありがとうございました。

今回、団体としては解散することとなりましたが、ご縁をいただいたことに変わりはありません。今後も、個人や別団体での活動などを通して、皆様とのつながりを大切にしていきたいと思います。また支援が必要となる場合があるかもしれませんが、引き続き暖かいご支援をいただけますようお願い申し上げます。そして、私たちが何かお役に立てそうなのがございましたら、お気軽にお声がけください。

最後になりますが、改めて皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

生物多様性わかものネットワーク
現役メンバー、OBOG メンバー 一同

目次

1. はじめに	3
この冊子について	3
歴代代表ご挨拶	3
2. 生物多様性わかものネットワークの沿革と主な活動	5
団体概要	5
沿革と主なイベント	6
国内での政策提言活動実績	9
成果のまとめ 政策提言分野	10
成果のまとめ 普及啓発分野	10
3. 解散に至る経緯	11
4. 活動フォトギャラリー	12
5. おわりに	16

1. はじめに

この冊子について

この報告書は、生物多様性わかものネットワークの解散に当たり、今までの活動の軌跡をまとめるとともに、多大なるご支援を頂いた皆様への感謝をお伝えするために作成いたしました。

当団体の沿革、活動の成果、解散に至った経緯、及び活動写真を1冊にまとめました。

歴代代表ご挨拶

初代代表 松井宏宇(まついひろたか)

2010 年名古屋で開催された生物多様性条約第 10 回締約国会議にユースとして参加、愛知目標への政策提言を目的に実施した「がけっぶちの生物多様性キャンペーン」。提言だけで終わりにするのではなく、ユースの力を活かし、きちんと実行に向けて私たちも実践していこうと 2012 年 3 月 11 日に始まったのが、私たち「生物多様性わかものネットワーク」でした。

11 年の時間を経て、「愛知目標」の目標期限も超え、「昆明・モントリオール生物多様性枠組み」と新しいステージになったいま振り返ってみれば、組織として、個人として、頭書掲げた「愛知目標」への貢献を果たしてどこまでできたのか、という思いもあります。

けれど、これまでの活動を通して、UNDB-J をはじめとした委員会への参加や生物多様性条約締約国会議の中で「ユース」という席がきちんと設けられるなど、他の分野と異なり、「ユース」というセクターがとりわけ、認識されるようになってきた分野であるといえるのではないかと思います。

生物多様性わかものネットワークとしての活動は、今回解散となりましたが、この会を通し、得た経験、人脈は、メンバー皆、新たな場でもしっかりと活かし、また今度は今度は私たち自身が次のユースを支える側として、ネイチャーポジティブを実現する立場として引き続き取り組んでいきたいと考えています。

11 年間に渡り、ご支援・ご協力いただき、どうもありがとうございました。

第2代代表 引地慶多

私は 2012 年の団体設立の時から関わらせていただき、2016 年から約 3 年間代表を務めました。この団体に所属していたからこそお会いできた生物多様性に関わる多くの方々に、たくさんのことを学ばせていただきました。ありがとうございました。

代表としては目立つ成果はあげられませんでした。が、学生メンバーが片手ほどの人数になったところから、人を集め活動を継続し次の世代に引き継いだことで、自分の役割を一つ果たせたのではないかと思います。

多くの機会をくれたこの団体に感謝すると共に、ユースの活動を応援し、ご支援ご協力いただきました多くの皆様に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



第3代代表 浅見友里

2019～2020 年度に 3 代目代表を務めさせていただきました、浅見友里と申します。

この代では、環境活動に取り組む学生や異分野の活動とコラボしながら生物多様性の普及啓発イベントを開催し、地域及び分野を問わず広く環境に関心のある学生とつながりをつくりネットワークを広げること



第4代代表 稲場一華

4 代目代表を務めさせて頂きました稲場一華です。私たちの代はちょうど新型コロナウイルスの影響を受け、対面での交流が難しく、運営も厳しい状況でした。しかしながら、多くの方々の支えがあったおかげで無事 COP15 を見届けることができました。団体メンバー、OBOG、生物多様性の最前線で活躍する皆様、これまでたくさんの方々に恵まれ、活動を続けることができたこと、本当に感謝しています。

これからは、この場所で出会ったご縁を大切に、それぞれの道を歩んでいきたいと思います。今日という日を生きる皆様へ応援の言葉を最後に、私からの挨拶とさせていただきます。



2. 生物多様性わかものネットワークの沿革と主な活動

団体概要

VISION

「自然と共生した社会の実現」

私たちの生活は、自然環境やそこに住む様々な生きものに依存しています。それにも関わらず、現代の私たちは、そんな生態系の回復機能を上回るペースで自然を切り崩してしまっている現状があります。

その結果として、2 万を超える生きものの絶滅が危惧されていたり、地球温暖化などによる気候変動が起こってしまっていたりと、様々な問題が生まれてしまっています。

自然の喪失や、それによる地球の将来に対する危機感を共有し、さらに、私たちの生活を根幹から支えている自然、生物多様性を残したいという想いから活動しています。

今の私たちの豊かな暮らしが、未来の私たち自身や私たちの子どもたちにも引き継がれていく。そんな未来を目指します。(2020 年4月)

MISSION

- ① 生物多様性の様々な課題に取り組むわかものをふやす
- ② 生物多様性をキーワードに様々なわかものが繋がり、協働できる場や仕組みをつくる
- ③ わかものが声を上げて生物多様性と共生した社会をつくる

“ヒト”は誰しものが生物多様性にかかわりを持っています。多くの人が生物多様性について理解し、守る意識を持って行動しなければ守ることができません。生物多様性わかものネットワークは、分野を問わず若者の生物多様性に対する理解・活動を促進します。

また、生物多様性に関する活動を行う様々な人々が繋がり、多くの人が考えや活動についてシェアできる場をつくることで生物多様性の問題とその活動への理解を深めあい、活動の活性化につなげます。

生物多様性の問題は、社会の仕組みの問題でもあります。これからの社会をつくる若者として、自分が生きる環境を守るため、社会の仕組みに対して働きかけます。

各種組織への参画

以下の会議、団体の構成メンバーとして、主に政策提言に係る活動を推進してきました。

- ・ 国際自然保護連合日本委員会(IUCN-J) ユース会員
- ・ Global Youth Biodiversity Network(GYBN) 日本支部
- ・ 国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J) 委員
- ・ 2030 生物多様性枠組実現日本会議(J-GBF) 構成委員
- ・ 環境省 30by30 アライアンス 構成委員

沿革と主なイベント

	主な出来事、活動ピックアップ	国際会議	生物多様性わかもの会議(わ会議)
2010	がけっぶちの生物多様性キャンペーン実行委員会 生物多様性条約第 10 回締約国会議(COP10)が名古屋で開催された際、『2020 年までに生物多様性の損失をゼロに！』という主張を掲げ、その達成のために活動を実施。COP10にて、愛知目標が採択。		
2012	生物多様性わかものネットワーク設立 生物多様性を守るため、継続的な取組を行うために団体を設立。	WCC5th派遣 大学院生1名、社会人1名(種田、後藤)を派遣。 COP11派遣 大学生1名(筒井)を派遣。	第1回わ会議開催 22 名が参加。 第2回わ会議開催 25 名が参加。
2013	出前講演 in 愛媛 愛媛の大学生を対象に生物多様性について出前講演を実施。	SBSTTA17 派遣 大学生1名(村西)を派遣。	第3回わ会議開催 30 名が参加。
2014	生物多様性わかもの白書 Vol.1 学生団体による生物多様性に関する活動の実態を把握するため、環境問題に関する活動を行う学生団体にアンケート調査を実施し、白書を発行。 ごとごとプロジェクト 「世の中、まるごと、自分ごと」をコンセプトに掲げ、生物多様性をはじめとする様々な環境問題を自分ごととして捉え、自分の言葉で、自分の考えを発信できる人材の育成を目指して、「気づき・考え・発信する」を実践する連続セミナーを開催。	COP12派遣 大学生3名、社会人1名(森木、安藤、小澤、松井)を派遣。	第4回わ会議開催 21 名が参加。
2015		SBSTTA19 派遣 大学生2名(宮崎、長谷山)を派遣。	第5回わ会議開催 35 名が参加。
2016	にじゅうまる COP2 「生物多様性わかもの白書」を用いて、わかものを巻き込むために必要な要素をテーマに、分科会及びワークショップを開催。	SBSTTA20/SBI1 派遣 大学生1名(稲垣)を派遣。 COP13 派遣 大学生2名(安藤、稲垣)を派遣。	第6回わ会議開催 18 名が参加。

2017	生物多様性わかもの白書 Vol.2 学生団体による生物多様性に関する活動の実態について、2014 年からの経年変化を調査するため環境問題に関する活動を行う学生団体にアンケートを実施するとともに、学生個人の環境活動や将来の進路についての認識に関するアンケートを実施し、白書を発行。	第2回日中韓IUCN会合派遣 大学生2名(島田、飯田)を派遣。 SBSTTA21 派遣 大学生2名(大江、有見)を派遣。 GYBN 主催 キャパシティビルディングワークショップ派遣 大学生2名、大学院生1名(飯田、竹尾、長谷山)を派遣。	第7回わ会議開催 13 名が参加。
2018	鳥ちゃん de ビンゴ 野鳥公園を散策しながら鳥への関心を高めるイベントを開催。 にじゅうまる COP3 東京 2020 オリンピック・パラリンピックの「持続可能な調達基準」を、生物多様性にとってより良いものにするべく、提案を作ることをテーマとした分科会及びワークショップを開催。	SBSTTA22/SBI2 派遣 大学生1名、大学院生1名(大江、矢動丸)を派遣。 第3回日中韓IUCN会合派遣 大学生1名、大学院生1名(金池、長谷山)を派遣。 COP14 派遣 大学院生1名、社会人1名(矢動丸、引地)を派遣。	第8回わ会議開催 9名が参加。
2019	みんなでエコラボ！ 「環境問題に取り組む学生が、生物多様性の問題について普及啓発をし、既存の活動を見直して、生物多様性問題を踏まえた魅力ある環境活動を作ること」を主な目的として、ユース環境団体を対象に大阪、新潟で開催。	1st-OEWG 派遣 大学生1名、大学院生1名(島田、矢動丸)を派遣。	第9回わ会議開催 8名が参加。
2020	生物多様性わかもの白書 Vol.3 自分をユースと認識している個人を対象に、意識的、無意識的な生物多様性に関わる活動を考慮した質問項目を作成し、①生物多様性、愛知目標に関する認知度 ②活動内容、③その他で関心のあ		

	る社会的活動を調査し、活動の実態、意見、他分野との協働の可能性を可視化することを目的として発行。 つながろう！みんなで生きもの会議 新型コロナの影響で、フィールドでの活動が制限される中、フィールドワークに取り組む学生を対象として、現状整理と将来に向けた取組について考えるオンラインイベントを計3回開催。		
2021	生物多様性わかもの白書 Vol.4 環境活動経験の有無にかかわらず、若者個人の環境問題に対する認識や興味、環境活動に対するイメージなどに関するアンケートを実施し、白書を発行。 めざせ！いきものハカセ 関東、近畿地方のユース団体と共催で、小学校低学年を対象とし、世界の生き物を紹介するオンラインツアーを計2回開催。		
2022	シマの環境問題を本気で考えたい大学生のためのスタディーツアーin 久米島 沖縄の久米島で、将来の生物多様性に関わるユースを対象に地域の環境問題を学び・解決策を考えていくためのスタディーツアーを開催。 作って！遊んで！学ぼう！うみのこと わくわくさんでおなじみの久保田雅人さんをお呼びして、小学生を対象に、海の環境問題について学べる魚釣りゲームと工作イベントを実施。 自然を詠う(オンライン開催) 高柳克弘さんを講師としてお招きし、俳句を通じた自然の親しみ方について、ご講演をいただく。その後、俳句コンテストも開催。 清里ミーティング 2022(オンライン開催) ワークショップ「生物多様性ミライ会議～わかものど環境保全をつなぐには～」を開催。	APC2 大学生 2 名(小林、吉川)を派遣。 4th-OEWG 大学生1名(吉川)を派遣。 ラムサール条約 COP14 大学生1名(加々美)を派遣。 COP15 派遣 大学生 2 名(吉川、鈴木)を派遣。	

国内での政策提言活動実績

会議、意見交換会等への出席

- 2012 年 国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)運営部会・幹事会・委員会
- 2013 年 UNDB-J 運営部会・幹事会・委員会
- 2014 年 UNDB-J 運営部会・幹事会・委員会
- 2015 年 UNDB-J 運営部会・幹事会・委員会
- 2016 年 UNDB-J 運営部会・幹事会・委員会
- 2017 年 UNDB-J 運営部会・幹事会・委員会
- 2018 年 UNDB-J 運営部会・幹事会・委員会
- 2019 年 UNDB-J 運営部会・幹事会・委員会
- 2020 年 UNDB-J 運営部会・幹事会・委員会、UNDB-J 10 周年振り返りフォーラム登壇
環境省との意見交換会 テーマ:コロナ後の経済社会の再設計について
- 2021 年 環境大臣との意見交換会 テーマ:国立公園における風力発電について
生物多様性国家戦略小委員会
- 2022 年 環境省との意見交換会 テーマ:次期国家戦略への提言
第1回・第2回 J-GBF 広報推進会議
第1回・第2回 J-GBF 行動変容ワーキンググループ
第1回 J-GBF 企画委員会
第1回 J-GBF 幹事会
- 2023 年 第1回 J-GBF 総会

パブリックコメント

- 2012 年 生物多様性国家戦略改訂案への提言
- 2018 年 生物多様性条約第6回国別報告書案への提言
- 2021 年 外来生物法改正への提言

成果のまとめ 政策提言分野

国際会議における政策提言活動

活動開始以降、のべ34名(人員の重複含む)の学生及び若手社会人を国際会議の場に派遣した。

各会議の中では、サイドイベント等での活動紹介や他国ユースとの人脈構築、キャンペーンへの参加などの活動のみならず、会議本体での発言や各国交渉官への働きかけを通じた決議に対する直接的な提言活動も実施することができた。

国際会議の決議に対する直接的影響の大きさを測るのは非常に困難だが、国際、国内問わず政策立案及び運用へのユースのプレゼンス向上に貢献し、環境省との意見交換会への招待などへの道筋ができたことは想像に難くない。また、派遣されたユースの一部は、国際会議に参加した経験を活かし、より下の世代の育成を目指した講演などの活動を現在も継続して実施しており、今後も個人単位であってもユースのプレゼンス向上に貢献していきたい。

国内での政策提言活動

国内においては、生物多様性国家戦略改訂案や生物多様性条約第6回国別報告書案に関するパブリックコメントでユースの参画に関する提案をはじめとするいくつかの提案が受け入れられた。

また、パブリックコメントのように全市民に開かれた場以外でも、UNDB-J 委員をはじめとして、行政設置の委員会へ参画してきた。コロナ禍により様々な会議が一時減ったものの、2020年以降はポスト愛知目標に関連する会議や環境大臣との意見交換会に、ユース団体として招待されるなど、国内の政策立案及び運用に対しても、ユースのプレゼンスを向上させることに貢献できたと考えられる。これらは、長期間活動を継続し、ユースの存在感を示し続けてきたことの成果のひとつである。

成果のまとめ 普及啓発分野

団体設立当初から実施してきた「生物多様性わかもの会議」では、のべ181名(スタッフ含む)の参加により様々な出会いがあり、毎回活発な議論が行われた。また、対面イベントが実施しづらい状況となったコロナ禍においても、オンラインイベント等を通して、距離の壁を越えて、様々な世代への普及啓発の働きかけを行った。また、にじゅうまる COP や清里ミーティングなど、他団体主催のイベントでのワークショップ開催や、外部から依頼を受けての講演実施なども複数実施した。

それぞれのイベントは、生物多様性について既に行動している人を対象にしたものから、生物多様性とは何かを説明する必要がある人を対象にしたものまで、多様な年代、性別の方を対象として実施した。少なくとも数百人規模に対して普及啓発活動を実施できたと考えられる。

3. 解散に至る経緯

生物多様性わかものネットワークは、「生物多様性に関する若者の理解の促進と、その持続可能な利用のための行動を呼び起こすことを通じて、若者が愛知ターゲット及びポスト愛知ターゲットの達成に貢献し、もって生物多様性と共生していく社会を構築すること」を目的として 2010 年の COP10 を契機に設立されました。設立以降、多くの方のご支援を頂きながら、国内外において様々な活動をしながらか愛知ターゲットの動向を追い続け、昨年 12 月には愛知ターゲット期間が満了、COP15 にて昆明・モンテリオール生物多様性条約枠組の成立を見届けることができました。

活動をしてきたこの 10 年間で、国際会議に参加するユースが増えただけでなく、生物多様性や自然との共生に取り組む団体も増え、それぞれの団体が活躍できる社会になってきました。それは大変喜ばしいことです。一方で、“環境”をテーマに活動するユース団体の細分化が進んでいることもあり、共に活動する仲間のいない個人や団体同士がつながって活動の場を創っていくネットワーク団体である本団体は、最近のユースの動きになかなか沿えないことが増えてきました。さらに、新型コロナウイルスの影響で対面での交流が制限されるようになり、団体としてのチームビルディングやモチベーションの維持が難しくなりました。

そのような背景もあり、既存のメンバーが今後の活動の場としてのわかものネットを維持していく必要性を感じていないのであれば、無理に継続させるのではなく、愛知ターゲット期間の終了に合わせてこの機会にわかものネットとしての活動に区切りをつけるという判断に至りました。

ご支援いただいた皆様には、このような決断に至ってしまったことを申し訳なく思うと同時に、10 年という長い年月、この団体をご支援してくださったこと、心から感謝しております。これまで多大なるご支援をいただき、本当にありがとうございました。

これまで多くの方のご支援のおかげで築き上げていくことができたこの団体を解散してしまうのは少し寂しいことではありますが、一方で先述の通り、生物多様性に関心を持つ個人や団体が、ネットワーク団体に所属せずとも各自で活動できる環境が整ってきたことは大変喜ばしく、これも先輩方が道筋を作ってきてくださったおかげです。

解散後も引き続き、メンバーそれぞれがこの団体で得たノウハウや知識を活かして、それぞれの地域や立場で、活動を拡大していく予定です。

生物多様性わかものネットワークとしては幕を閉じますが、新たな始まりとしてメンバー一同それぞれの道を歩んで行けたら幸いです。

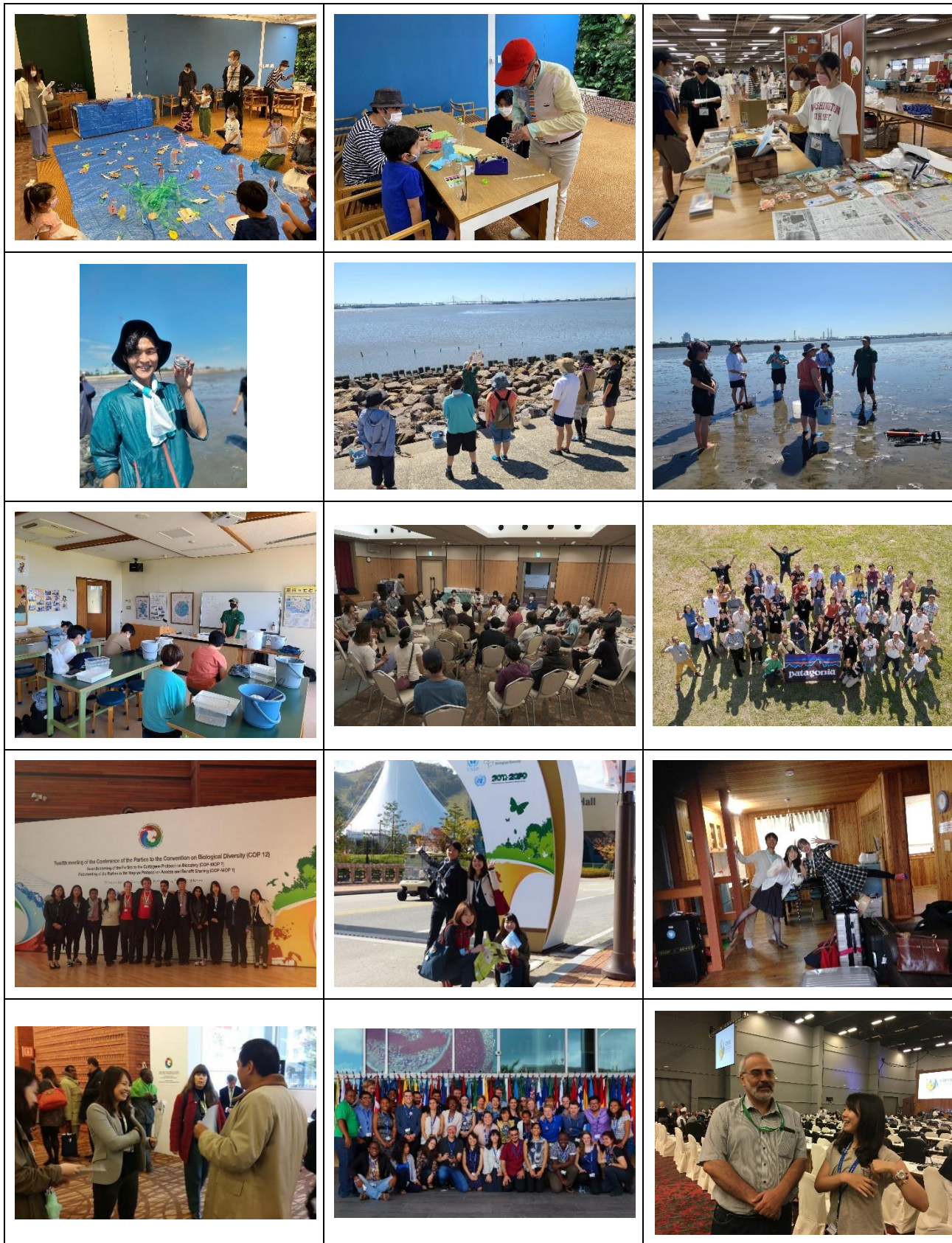
第4代代表 稲場一華

4. 活動フォトギャラリー











5. おわりに

改めまして、10 年以上にわたる活動に対し、様々な形でご支援を頂いた皆様に御礼申し上げます。また、メンバーに入れ替わりはありつつも、一緒に活動してくれたメンバーの皆様にも御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

団体が解散するにあたり、ただ「バイバイ」で終わってしまったら寂しいなと思い、団体設立当初からのあゆみを簡単な形ででも残しておきたいと思いこの冊子を制作することといたしました。団体設立当初は、今よりも若者の声が届きにくい構造の会議などが当たり前となっていたのではないかと思います。今回、沿革を整理することで、支援を頂きながら実施した様々な活動を通して、少しずつ良いほうに道を切り開いてきたことが改めて伝わってきました。

生物多様性わかものネットワークとしての活動は一旦幕を閉じますが、各々が自分らしい形で活動を継続していけたらよい社会につながるのではないかと思います。引き続きよろしくお願いいたします。

編集委員：浅原(安藤)みゆき